



芝小だより

第三月号

発行所 港区立芝小学校
〒105-0014
港区芝 2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
[FAX:03-3456-3071](tel:03-3456-3071)



三月に思うこと、忘れてはいけないこと

校長 齋藤幸之介

今冬は例年に比して厳しい季節でした。気温もさることながら、記録的な降雪になった地域もありました。かつて「五六豪雪」（一九八〇～一九八一年）という観測史に残る冬がありました。例えば先日の国道八号線で車が立ち往生したという大被害はこれに匹敵するのではないとも言われています。改めて自然災害の恐ろしさを強く感じるとともに、人間はやはり自然を支配するには至らない、と学んだ学生時代を思い出します。

このように考えてまいりますと、日本に住む私共には忘れてはならない災害が三月に起きたことが想起されます。それは、東日本大震災、そして東京大空襲です。

東日本大震災

二〇一一年三月十一日十四時四六分、皆様はどこで何をしていたのでしょうか。私は、当時新宿区立小学校の第六学年担任でした。ちょうど体育科の授業をしておりました。子供たちがバスケットボールを追う賑やかな足音とは異なる音がしたな、と思っている、体育館の梁から、今まで取ることができなかったボールやバドミントンの羽などが落ちてきました。普段は器械運動で使うマットが、そのときばかりは防災頭巾になりました。子供たち全員を保護者に引き渡した後、学校は帰宅困難者のための避難所となりました。翌朝、若い女性が区職員に「私はどうやって東北に帰ればよい

のでしょうか」と訴えていた場面が今でも脳裏に焼き付いています。被害の大きさは私が述べるまでもありません。あれから、学校では避難訓練を始めとする防災教育が充実しました。防災から減災へと考え方が変わる中、私共には何ができるのかを必死で考えています。このことが犠牲になられた方々へのせめてもの報い、と思っておりますが、皆様はいかがお考えでしょうか。

東京大空襲

ここ数年は誰もが「三・一一」を思い出すこと存じますが、他に忘れてはならないと思うことがあります。それは、東京大空襲です。

一九四五年三月、日付が九日から十日に変わってからすぐに空襲が始まったそうです。東京のかんりの地域が被害を受けたことは言うまでもありません。死者は十万人を超えたとも言われています。本校の記録を調べると、この空襲での直接の被害はなかったようですが、しかし、五月二十五日の空襲で校舎は全焼し、その後しばらくの間は南海国民学校（後の旧南海小学校）にて授業を行っていたとのこと。高学年は栃木県に学童疎開をしていました。

戦禍の悲惨さは一度と味わうわけにはいきませんが、だからこそ当時の人々を思い続けながら今日の平和のあり様を子供たちと共に考えていきたい、と改めて思っています。

東日本大震災の「今」について

東日本大震災の後、私は、世の中がしばらくの間静かになっていったと捉えています。平素使っている小田急線も最寄駅

から電車に乗ることができず、隣駅まで歩いたことを記憶しています。エスカレーターも動きませんでした。今では影響は全くないようにも思えますが、しかし、復興には程遠い地域もあることが報道されてもいます。

何をどうすべき、ということは私には差し出がましく申し上げることはできません。子供たちに伝えることができることがあるとするならば、私がかかっている情報でしょうか。もし、一つだけ許されるとするならば、それは「忘れない」ことを伝える、を挙げたいと思います。東日本大震災が起きたとき、六年生は小学校就学前、また一年生の中には生まれていない子もいました。記憶がなくても仕方ないことです。

しかし、伝え聞くことも含めて自分の中にその事実があれば、子供たちはそれをきっかけに考えられるでしょう。そして、より望ましい判断と行動ができます。

だから、私共がこれからも幸せであるために、三月には忘れてはならないことがあるのではないかと思っています。いかがでしょうか。

最後になります。校長であるならば、自分の学校を誇りに思えなければ、と先輩から言われたことがあります。私は今、諸行事等を通して力強く支えてくださる地域の方々、時に厳しくありながら学校を理解し、共に歩んでくださる保護者の方にいていただける本校を素晴らしいと自負しています。年度当初に申し上げた、「本校の教員を育てていただきたい」という私の願いも叶えていただけたと思っております。そして、素晴らしい子供たちに出会えました。心より感謝いたします。今後共々どうぞよろしくお願い申し上げます。

